

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	堆肥センター管理運営委託事業	会計	一般会計	事業No.	412	施策順No.	56-011
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-1-4-25-4		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	農業課		
施策	56 廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	中心市街地収集エリア内の家庭生ごみ 堆肥センター処理量(家庭生ごみ含む)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		収集エリア内の家庭生ごみ搬入量(t)	167	182	177	168.51	250	
		処理量(家庭生ごみ含む)(t)	6735.55	5051.31	4734.25	4671.21		
意図	良質な堆肥を生産する							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	堆肥生産量(t)	1800	1800	1900	1900	1900	2000	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	計画的な堆肥生産が行われており、目標が達成されている。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	センターは平成16年6月に本格稼働し、市内で発生するきのこの廃培地(6t/日)を水分調整材に、市街地の家庭生ごみ等(3t/日地)を発酵促進材に、畜産農家の畜ふん(10t/日)を主原料に、リサイクル発酵堆肥を生産し、市内中心にバラ・袋づめの2形態で販売している。本施設は、JA、事業参画農家(6戸)、飯田市の出資により設立した「有限会社いいだ有機」に管理運営を委託しており、独立採算での事業運営がなされている。本会社の主たる収入は、堆肥原料(畜ふん、生ごみ、きのこ廃培地、事業系生ごみ)の処理経費相当分及び堆肥販売収入であり、市では、中心市街地の家庭生ごみ及び公共施設(丸山共同調理場、東・西中、浜井場・追手町・丸山小・市役所)生ごみの処理経費相当額を委託料として支出している。また、当該施設用地、8,827㎡分は借地として市が借地料を負担している(地権者2名 契約期間20年)。機械設備の定期検査(車検)、環境影響調査は施設所有者である市が行っている。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理運営委託料(生ごみ処理経費を算出根拠とする) @3,000円 (@2,000円/2t×1.5台/日) ×365日 = 1,095,000円</li> <li>環境影響調査 定期臭気・水質検査委託料 @63,000円 ×1回 = 63,000円</li> <li>用地借地料 (年間分) @25.1円 × 8,827㎡ = 221,646円</li> <li>市有物件保険料</li> </ul>	1. 施設稼働日数 2. 処理量 (生ごみ・畜ふん・培地) 3. 環境調査回数	1 365日 2 4,671.2t 3 1回
23年度実施計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理運営委託料(生ごみ処理経費を算出根拠とする) @3,000円 (@2,000円/2t×1.5台/日) ×365日 = 1,095,000円</li> <li>環境影響調査 定期臭気・水質検査委託料 @63,000円 ×1回 = 63,000円</li> <li>用地借地料 (年間分) @25.1円 × 8,827㎡ = 221,646円</li> <li>施設修繕費、ホイールローダー車検等</li> <li>市有物件保険料</li> </ul>	1. 施設稼働日数 2. 処理量(生ごみ・畜ふん・培地) 3. 定期環境調査回数	1 365日 2 4,700.00t 3 1回

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源	1,711	1,412	2,008	
	計(A)	1,711	1,412	2,008		
	正規職員所要時間		232			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		830			
	トータルコスト A+B		2,242			

4 事業に対する市民や議会の意見

市民からは、畜産公害排除要請がある。議会からは家畜排せつ物の市の対応を質問され、畜産農家からは、ふん尿処理施設整備に対してする支援を求める声が高い。・安心安全な農畜産物を求める消費者の声が高まってきている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	廃棄物、適正に処理・リサイクルされる	施策の成果指標又はムトス指標	再資源化率(家庭系一般廃棄物)%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	有機性廃棄物を資源として活用しリサイクル堆肥を生産することにより、焼却・埋却等の処理抑制につながり、上位施策の再資源化率向上に結びついている。		
	後期に向けた課題	生ごみを排出する者に対して、再資源化への意識向上		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	生ごみを排出する者に対して、堆肥センターの視察などを通じ、再資源化への意識啓発を行っている。また、委託先であるいいた有機の経営安定に向け、排出される有機性廃棄物のほかに、管内製材所から発生するおがこの活用を行うなど、当初計画以上に地域内循環のシステムを構築してきている。		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地における生ごみ収集率の向上に向けた意識啓発</li> <li>・安定的な堆肥生産を維持するため、新たな副資材の研究が必要</li> <li>・堆肥の利用先拡大と生産された農産物に地域内循環の構築</li> </ul>		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	委託料は、排出する者がそれぞれ相応の負担を行っているため減額は行わなかった。いいた有機においてPCを購入し経理事務の簡素化・データ化を図ってきた。これにより、市としてはチェック機能として事務や処理状況の把握がスムーズに行われ、人件費の削減につながっている。		
	後期に向けた課題	現状の対応を維持するとともに、会社として突発的な修繕に対応できるよう計画的な施設修繕積み立てを行うなどの検討が必要。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	有機性廃棄物のリサイクルを図ることにより、環境負荷の低減、悪臭防止、食農循環につながるため、受益者は市民全体と考える。またセンターに搬入する者からは相応の負担をいただいでおり、負担の程度は適切と考える。また、低炭素社会構築に向けた各種プラン実現に向け、市が積極的に関わることが目的達成につながると考えている。		
	後期に向けた課題	現状における対応を維持する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①各有機性廃棄物を排出する者及び堆肥センターにおいて生産された堆肥を利用する者が主体として考えられる。それぞれの者が、再資源化と環境負荷軽減に向けた共通の認識を持ち取り組みを実践してきている。 ②各種環境に関わる上位計画・上位施策と調和する中で、堆肥センターを一つのきっかけにした資源循環の取り組みをPRするとともに、有限会社いいた有機の取り組みを介し、食農循環などの働きかけを行ってきている。		
	後期に向けた課題	現状の対応を維持するとともに、市の各種計画の目的達成に向けた調整が必要。		
全体を通じて	4年間の振り返り	再資源化による廃棄物の適正処理が行われ、環境負荷の低減と循環型農業の構築につながってきている。また委託先である有限会社いいた有機においても今期まで経常損失なしの健全経営が行われており、堆肥センターを一つのきっかけにした地域内循環の取り組みが行われてきている。		
	後期に向けた課題	安定的な堆肥生産とあわせ、城産域消による地域内農作物の循環システムの構築に向け、市民や農作物販売店との連携した協議・検討が必要である。また、広域連合において次期ごみ処理施設に併設し生ごみのバイオガス化施設の検討がなされることや、飯田市ごみ処理計画の見直しが行われる中で、生ごみを再資源化する堆肥センターのあり方について整理していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------